

ごあいさつ



六月はじめじめに弱いアースベースのノザワです。今月の表題絵は広重**『水道橋駿河台』**です。鯉幟が豪快に泳ぐ様が美しい一枚のアレンジです(縦にして見てね)。何故六月に鯉幟…といいますと、実は五月で使うのを忘れていたのです。先月のとチェンジして考えていただくと幸いです。水道橋と言えば東京ドーム。野球が盛り上がっています。そして水道橋で緋鯉を泳がせるというこの根性。皮肉と応援を風にたなびかせました。一応オレンジ兎党なんですけどね(笑)。

Day number 30.1.2 ~三日間の記~

Prologue, 注文のできない料理所

天国とも地獄とも称された今年のゴールデンウィーク。如何お過ごしだったでしょう?よく考えれば4月の30日と5月の1日は特別中の特別なので例外としても、2日は平日なのです。ついでに休んでしまおうと

いうのは何故なのでしょう?それに抗うように、街は結構平常運行。休んだのは役所 関係と病院と、いつもの仕出し弁当屋でした。アスベはその三日間を開けるという事 になったのですが、お昼ご飯はどうする?!となり、さて料理長S女史、副料理長ノ ザワ、アシスタントにSさんKさんが立ち上がったのです。"さて何にしよう?"

Day1,カレーライスとフルーツポンチ

S女史が奮発した2升炊きの業務用炊飯器。炊きあがったその様子はスタジアムを覗き込んだよう。白さはアドリア海の白浜であろうか。さらにカレーの鍋は海である。そこで少し焦げ目を付けた野菜や肉が泳ぐ。すぐ固形のルゥがぶち込まれ、カレーになるのも時間の問題であった。無事に完成、盛られたそのカレーはごく想像に固く無いものであったが、食欲をそそる薫りはそれ以上の味を容易に連想させた。赤い福神漬けは飛行艇のようである。少々固めに炊きあがったその白砂の如き米が、カレーのうまさを引き立てた。サラダ付き。おかわりをするものも出た。調理側として実に嬉しい出来事である。「お粗末様」はこっちが言うのだぞ!



S女史の炊飯器はカレーに止まらず、献立の幅をおおいに広げた。米を沢山使った メニューが作れるというのは、大袈裟だがレパートリーが∞に広まったという事だ。 米系メニューをアレコレ探していたら有名なペッパーライスをS女史の目に留まっ た。「これどう?」『いいですね!』「…どうやって作るの?」『??!』 当日、『牛 肉が安かった』とその人は言った。前日まで使用肉が豚になるかもしれないという



ものは杞憂だった。"それは豚肉が高かったのでは?"と言おうとしてやめた。肉とはそういう物なのだ。まだ点火していないホットプレートに肉を広げる。その上に炊いた飯、ネギ、コーン、バター(マーガリン)











を乗せる。スイッチオン。話題のコールドスタート。強めに火力を整え、やがてフツフツからジュ〜という音になってきたら炒め混ぜ始める。あきらかに良い匂いになってきたらステーキソースをだらり。焼肉のタレよりおすすめ。ステーキ屋のメニューだものね。そこへ塩・胡椒、ブラックペッパーを多めに。何故か冷凍枝豆が投入された。奇麗に混ぜていい感じになったら完成。わいわい召し上がれ!この日、ガス代を貸してくれた某社の若旦那を招き、デザートのバナナパフェと合わせておもてなし。あれこれ雑談、そんな中で若旦那から名言が飛び出した。『妹って偉そうなんですよ』・・・そう!!



思えば、夜店の屋台のメニューみたいなものが続いた。しかし裏を返せば、屋台メニューというのはそれなりの伸び力があるからあのようになっているのだ。今度吟味する時は屋台を想像してみようと思いつつ、三日目のメニューは焼きそばだ。S女史家流の作り方でそれぞれの材料に火を通し、ソース味と塩味が完成。そばの中にもやしやキャベツ、ピーマンが踊る。ニンジン?嫌い?あ、そう。紅ショウガは飛行艇だ(リプライ)。ついでに作ったスープも好評で何より。デザートにホットケーキが振る舞われたが、あんまり乗り気無く、皆ぐだぐだと食す。『令和』とシャレて書いたものでちょっと巻き返す?これで GW 中のヒルメシウォーズは無事終了した。少し休んでまた明けから七月の海の日まで頑張ろう、なんて思うわけはなかった。「川で釣りしている」という謎の言葉が所内をぷかり。アスベの倉庫にスピニング式の釣り竿があったのは知っていた。ムカシ、釣りをしたらしい(ボウズ)。それでもまた持ち出したのかと思っていたが、違うらしい。どうやら何処からか持ち出した網で、川中をしゃくっていただけなのだ。これまた何処からか持ち出したバケツには、何故か金魚と名も分からないごく小さい幼魚がへらへらと笑っていた。「これどうすんの?」とは訊かなかった。金魚の行方は誰も知らない。

Epilog, それでも季節はやってくる

下流からのカヤック一団の舟が水面を揺らせる。右の写真を撮影したら、土手は同じ方向から吹く風が、海と緑の匂いを乗せていて、夏の訪れを思った。5月2日、平成から令和になって間もない、戯れの三日間でした。







編集後記

普通の日から普通の日になっただけなのに、ちょっと特別に思えた平成から令和の日。 結構楽しかったかもしれません。新元号時代も何卒よろしくお願いします。

【月刊地球基地】 発行人:一般社団法人 EARTH BASE 健常者と障がい者が一緒になって看板・サイン・ポスターなどを製作しています。 〒132-0034 東京都 江戸川区 小松川 3-2-1 テクノタウン 306 TEL: 03-5875-5941 FAX:03-5875-5942 mail: info@earth-b.jp URL: http://www.earth-b.or.jp/